



校種：高等学校
教科：芸術科(美術Ⅰ)
単元名：「人物像を見つめて描く」
～自己や他者の内面に触れて～
(単元16時間)

プロジェクト研究



視点1 各教科と「持続可能な社会の創り手」との関連

持続可能な社会の担い手として，その多様性を原動力とし，質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していく。

【高等学校学習指導要領解説 芸術(美術)編 P1】

具体的には、以下の内容が重要です。

- 1.自然環境や社会問題に対する理解を深める。
- 2.創造的な思考と行動を促す。

例えば、以下のような活動が行われます。

- 環境問題に関するテーマを取り上げた作品制作。
- 持続可能な素材の使用を促すプロジェクト。

このように、美術教育は単なる技術や表現の習得だけでなく、社会的な課題に対する意識を高め、持続可能な社会の創り手としての役割を果たすことを目指しています。



視点2 授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

指導の個別化

生徒の理解度や進捗に応じて、個別サポートを提供する。例えば、材料や配色に悩む生徒には具体的なアドバイスや視覚的手本を提供し、主題や構想がまとまらない生徒には再考の機会を設ける。表現の意図と材料や用具の特性を関連させた指導も行う。

学習の個性化

デジタルツールで生徒の進捗を把握し、必要に応じてフィードバックを行う。また、生徒のニーズやペースに合わせた具体的なアドバイスを提供。材料や配色に悩む生徒には視覚的な手本を提供し、主題や構想がまとまらない生徒には再考の機会を設け、サポートする。

協働的な学び

生徒同士が協力して学びを深めるために、グループワークやピアフィードバックを取り入れる。制作途中で相互鑑賞を行い、他者の作品を見たり意図を説明し合う場を設ける。これにより、生徒は他者の意見を参考にし、自分の作品を向上させる。

視点3 個別最適な学びと協働的な学びの 学習活動に応じたICTの活用

1.制作途中作品の相互鑑賞会

1. 電子黒板やタブレットを用いて、生徒が制作途中の作品を見せ合いフィードバックを行う。

2.アイデア共有

1. 電子黒板やタブレットを利用して、生徒のアイデアを全体で共有し、ディスカッションを行う。

3.作品の鑑賞と説明

1. タブレットを使用して、制作過程と完成作品をポートフォリオとして説明。
2. 生徒が自分の作品をタブレット上で説明し、他の学生からのフィードバックを受ける。

視点4 授業デザイン(単元)を構想するにあたってのポイント

学びの明確化

各単元で「生徒が何を身に付け、どのように学ぶのか」を明確にすることが大切。個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることを目指す。

創造的な学習活動

生徒が自分の視点やペースで学習を進められるように工夫する。発想や構想を基に創造的に表現する学習活動を展開する。

多様な学習の場の設定

生徒のニーズや特性に合わせて、多様な学習の場を設ける。ICTを活用し、主題を追求し造形的な見方や感じ方を深める指導を行う。

指導の個別化



主
興味喚起



深
アイデア

複数の美術作品をグループで鑑賞し、対話しながら感じ取ったことを共有することは、指導の個別化にも役立ちます。異なる視点や意見を比較し、作品の理解を深めることで、生徒同士の協力を促します。



対
先哲参考

学習の個性化

美術作品の鑑賞と批評を通じて、生徒は自分のペースで学習を進め、興味を持つ作品に**主体的に**向き合う姿勢を育みます。これにより、個々の視点で作者の心情や表現の意図を深く理解することができます。また、過去の著名な芸術家や作品を参考にすることで、生徒は興味に応じた学びを深め、自らの視点で作品を評価・批評する力を養い、**先哲**の技術や表現手法を学ぶことができます。



対
比較



対
表現

協働的な学び

複数の美術作品をグループで鑑賞し、**対話**しながら共有することで協働的な学びを促進します。異なる視点や意見を比較し、作品の理解を深め、生徒同士の協力を促します。また、対話を通じて他者の意見を取り入れ、批評力を養います。

ICTの活用



デジタル

- ・タブレットで生徒の進捗をモニタリング・**クラスルーム**でアイデアや発想を共有
- ・タブレットを活用して制作過程や完成作品をポートフォリオとしてまとめ、説明。

協働的な学びについて



自分事

指導の個別化

生徒が表現したい**対象を見つめ**、自分の感じ取ったことや考えたことから主題を生成する際、教師は生徒の個性や興味に合わせた指導を行います。これにより、独自の視点や想像力が引き出されます。生成した**主題に基づき構想を練る**際、進捗や理解度に応じたサポートを行い、生徒一人ひとりに適切なアドバイスやフィードバックを提供します。



アイデア

学習の個性化

生徒が自分のペースで主題を生成し、自分の感じ取ったことや考えたことを反映させることで、学習の個性化が促進されます。**生成した主題を基に表現形式やアイデアスケッチを練る**過程で、生徒は個性と創造力を発揮し、**学びを深めます**。



探究

協働的な学び

グループやペアで活動することで、生徒はお互いの考えや感じ取ったことを共有しながら主題を生成し、他者の視点や意見を取り入れつつ自分の考えを深めることができ、グループで**構想を練る**ことで、アイデアを出し合いフィードバックを行いながら表現の特性や構図を考えるプロセスを通じて協働的な学びが促進されます。



説明



表現

ICTの活用



デジタル



プレゼン

・**デジタルツール**を活動して生徒は多様な視点から主題を生成する。・**タブレット**を用いてアイデアスケッチや構想の整理を行い、創造的な構想を練る。

指導の個別化

生徒それぞれが選んだ**主題や構想**に基づいて、個別のアプローチを強化する。また、興味を引き続けるために、生徒が選んだテーマに関連する追加の資料やリソースを提供す



学習の個性化

生徒の理解度や進捗に応じて、個別のサポートを提供する。例えば、材料や用具の選定や配色に悩んでいる生徒には、具体的なアドバイスや視覚的な手本を提供する。主題や構想がまとまらない生徒には、再度主題を見直させたり、表現の意図と材料や用具の特性とを関連させて再考させるなどの指導を行う。



協働的な学び

制作の途中に生徒同士が相互鑑賞を行い、**他者の作品を見たり表現の意図を説明したりすることで**、協働的な学びが促進されます。これにより、生徒は他者の視点や意見を取り入れながら、自分の作品をより明確にすることができます。



ICTの活用

・**デジタルツール**を活動して生徒は多様な視点から主題を生成できる。・**タブレット**を用いてアイデアスケッチや構想の整理を行い、創造的な構想を練る。

導入

展開①

展開②

終末(15~16次)における学習の個性化、
指次導の個別化、協働的な学びについて

指導の個別化



作品制作後、生徒が自分のペースで鑑賞活動を進められるように、デジタルツールを使って興味を持つ他の美術作品を紹介し、追加の学習活動を提供します。生徒が自身の作品について深く考える機会を設け、個別に**フィードバック**を行います。



学習の個性化

鑑賞活動後、各生徒の理解度に応じたサポートを提供します。作者の心情や意図について深めるための具体的な質問や、再度作品を見直させることで理解を促します。これにより、生徒の理解が深まります。



協働的な学び

生徒同士が協力し合いながら学びを深めるために、相互鑑賞やディスカッションの場を設け、意見交換や批評を行います。グループ活動を通じて共同でプレゼンテーションを作成し、クラス全体で発表することで、協働的な学びを促進します。



ICTの活用

・デジタルツールを活用して、様々な美術作品を鑑賞し、第一次とは異なる作品を鑑賞し、見方や感じ方を深める。
・幅広い視点から作品を鑑賞し、感じたことや考えたことを共有する。電子黒板やタブレットでの意見交換を行う。

美術科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して

美術の授業改善において、生徒一人ひとりの興味や学習スタイルに応じた学習体験を提供することが重要。

- デジタルツールを使って進捗をモニタリングし、個別のフィードバックやサポートを行う。
- 生徒が興味を持つテーマに基づいたプロジェクトを設定し、学びを深める機会を提供する。
- 生徒同士が協力し合う場を設け、グループワークや相互鑑賞活動を通じて意見交換やフィードバックを行う。
- 個別最適な学びと協働的な学びを統合することで、生徒同士が助け合いながら学びを深め、学習効果を高めることができる。